岩手県文化財調査報告書第六十七集

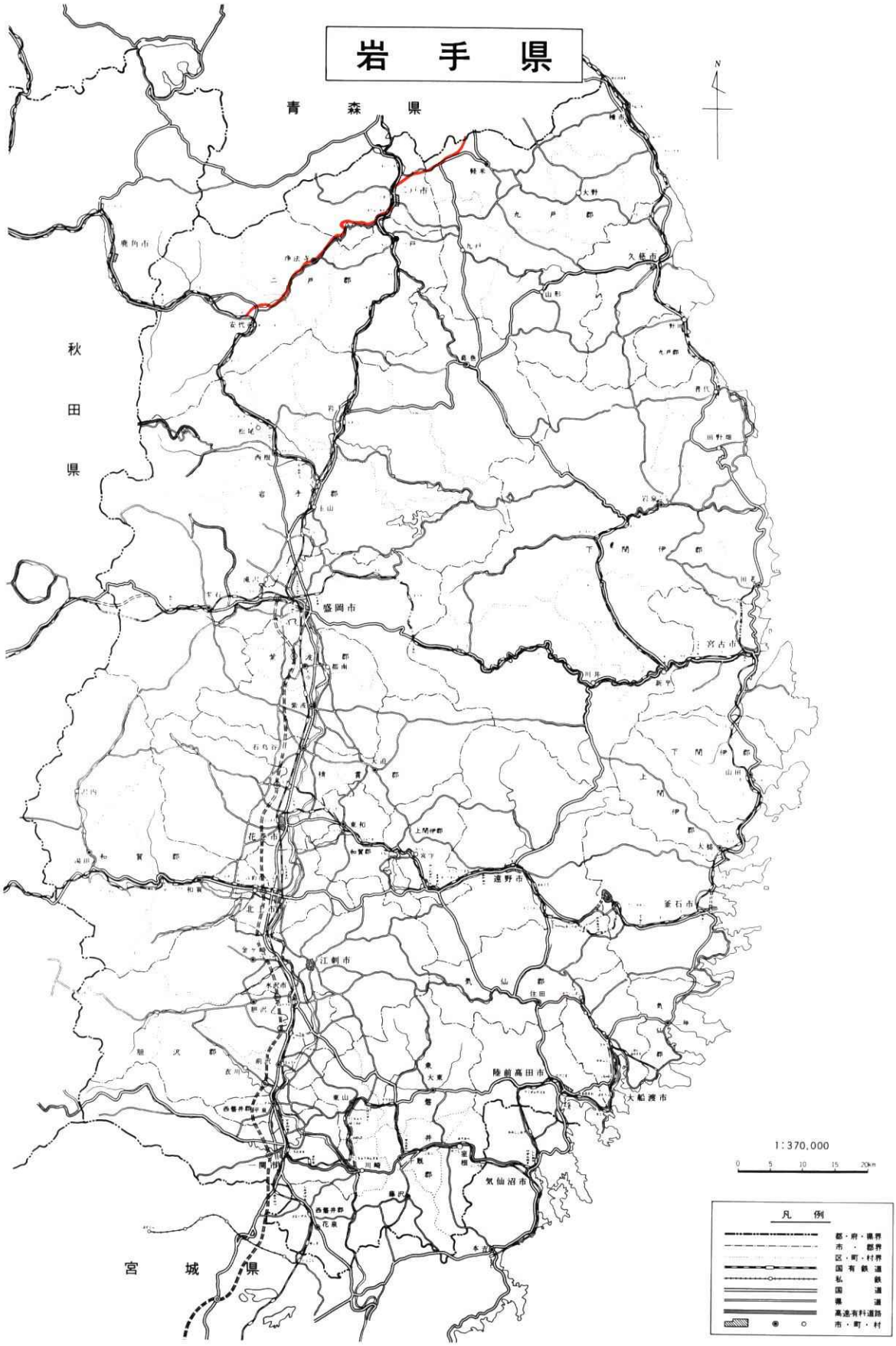
岩手県「歴史の道」調査報告

浄法寺・八戸街道

岩手県教育委員会

岩手県「歴史の道」調査報告

浄法寺・八戸街道


岩手県
青森県
秋田県
宮城県
盛岡市
宮古市
釜石市
遠野市
江刺市
陸前高田市
大船渡市
気仙沼市
久慈市
1:370,000
凡例
都・府・県界
市・郡界
区・町・村界
国有鉄道
私鉄
国道
県道
高速有料道路
市・町・村

序

地域開発に伴なう交通網の整備は、現代社会の進歩発展から生ずる必然的な要請であり、県内においても日々近代的な道路の建設が各所で行われ、私達の生活は一段と便利になり多大の恩恵を受けております。

しかしその反面、本県歴史を知る上にきわめて重要な意味をもつ道、河川などの交通路に残る並木道・道標・一里塚などの交通遺跡が次第にその姿を消しております。このような現状を重視し、本県では昭和五十三年度から国庫補助を受け「歴史の道」を調査してまいりました。

本報告書は、本年度に調査しました五街道のうち、奥州道中福岡宿から南西に進み、安比川沿いに浄法寺を経て鹿角街道への合流点（安代町荒屋曲田）まで、他方福岡宿から北東に進み、猿越峠、観音林を経て八戸藩領の三戸郡にいたる岩手県分の道「浄法寺・八戸街道」について、街道の現状と文化財の保存状況など、その周囲の環境を含めて総合的に調査し、その成果を集成したものであります。

本書が、今後の交通関係遺跡の保護及び歴史の道研究の一助となれば幸いであります。

なお、調査に御協力いただきました調査員各位並びに関係市町村教育委員会をはじめ、諸資料を提供してくださった方々に対し、哀心より感謝申し上げます。

昭和五十六年三月

岩手県教育委員会

教育長　新　里　　盈

例　言

一、本書は歴史の道「浄法寺・八戸街道」に関する報告書である。

二、本調査は主として次にあげるものを収集し、調査を実施した。

(一)　収集したもの

古文書、地誌類、紀行文、古絵図類や明治時代の実測図など。

(二)　調査した事項

(ア)　道及びこれに沿う地域に残る遺跡の分布状況と保存の実態。

(イ)　江戸時代の国界・藩界及び郡名。

三、本調査の調査員・補助員は左記のとおりである。

主任専門調査員　草間俊一　岩手大学教授

専門調査員　細井計　岩手大学教授

専門調査員　吉田義昭　盛岡市教委文化財専門員

地区調査員（浄法寺町）田口方三　岩手県文化財保護指導員

地区調査員（二戸市）田中庄一　二戸市文化財調査員

地区調査員（軽米町）永井勝栄　軽米町文化財調査員

補助員　高橋哲郎　岩手大学文部技官

四、調査の方法は、地区調査員が調査カードを作成し、調査カードにもとづき専門調査員が確認調査を行なった。

五、本書は、主任専門調査員草間俊一が執筆し、文化課が編集にあたった。

目次

岩手県教育委員会教育長　新里　盈

序
例言
浄法寺街道
第一章　まえがき……6
第二章　街道の現状……6
第三章　文化財・その他……9
第四章　公開施設……11
八戸街道
第一章　まえがき……19
第二章　街道の現況……20
第三章　文化財・その他……21
地図……27

浄法寺街道

第一章　まえがき

福岡より石切所―似鳥―安比―沢口―漆沢―松岡―岩渕―浄法寺―駒ヶ嶺―大清水―岩屋―浅沢―五日市を経て曲田で盛岡から滝沢村―西根町―安代町を経て鹿角に行く鹿角街道（昭和五十四年度調査）と合する道筋は旧い五万分ノ一の地図には「鹿角街道」と記されている。即ち福岡より鹿角へ行く街道であった。藩政時代この街道沿いの前にあげた村落はすべて福岡代官所支配下の村落であって、代官所のある福岡と各村落とを結ぶ主要道路であることを考えると、各村落からは福岡街道と云えるものであった。しかし『邦内郷村志』などによると、この街道の中程にある浄法寺は、中世この地方の領主浄法寺氏の居城であったので、藩政時代には「坊市巡検使有二旅亭一」と云われて、一つの中心地であった。そのためか「浄法寺道」の記述が各所に見られる。また『北奥路程記』にも「浄法寺街道」の表現が見られるので、浄法寺街道と名付けることにした。

福岡から曲田までで、この間二戸市、浄法寺町、安代町の一市二町に亘っているが、本年地区調査員は二戸市と浄法寺町だけで、安代町を依頼していなかったので、安代町分は浄法寺町の田口委員に案内をお願して、現地調査を行った。その点若干不備のところがあるかも知れないし、安代町の現地調査の資料がないのでそのところは省略した。

二戸市は田中庄一委員、浄法寺町は田口方三委員の調査報告書に基づいて、九月五日、六日の両日行い、なお補足として、十月三十一日調査を行って、執筆したものである。

なお、奥州街道から分れて浄法寺に行くのに、金田一から長瀬橋を渡らずに、馬渕川の西岸の米沢を通って、石切所に出て行く道もあり、この道を来ると、石切所の大村に道標が一基ある。記年はないが、江戸時代のものである。この道筋について田中調査員の調査されたものがあるが省略した。

また、浄法寺への道には、一戸から御山の桂清水（天台寺）へ行って、岡本に出る道があり、菅江真澄はこの道を浄法寺の方から、天台寺を参詣して、一戸に出ている。（「けふのせはのの」（『菅江真澄全集第一巻』））

そのほか天台寺より小繋に出る道もあったが、これらはすべて省略した。

第二章　街道の現状

一　戸　市

『北奥路程記』に「福岡五日町より西二行道あり、爰は浄法寺街道にて馬渕川土橋渡り石切所村…」とあり、在府小路から五日町に曲る角で、五日町と反対の南に行くのが浄法寺街道である。五日町は現国道と重っているが、浄法寺街道は国道四号線の南裏側の住宅地のところを通っている。この道も一部舗装されているが、旧道の名残がある。二戸郡の合同庁舎の東裏側を通ったところで、西に曲り、国道を横切って、二戸警察署の南側を通って、馬渕川の岸に出た。路程記には土橋とあるが、国道から馬渕川岸に出る短い道を俗に舟場道と呼んでいるところから、江戸時代の中頃まで舟渡しであったとも考えられる。対岸の石切所の河岸に橋脚の跡があると報告されているが、馬渕川の水量と河巾を考えると橋の作られたのは幕末のことであろう。

石切所村に渡って、西に少し行くと、八幡社と長福寺が並んでいる。その前を通

浄法寺道絵図（部分）

（田中庄一氏所蔵）

る南に曲る道を通り、現在の福岡駅前の通りを横切って南に進む。この旧道は現在の県道福岡―安代線の東側に当り、石切所小学校への道の少し東側にあったらしいが、石切所小学校への道路の開通によって、旧道は住宅地となっている。大体は石切所小学校道路に近いと考えて差支えない。その道は石切所小学校の西側にのびているが、小学校を通りすぎた附近で、西に曲って、県道福岡―安代線に出る。その西に曲るところが分れとなっており、道標が立っている。「右ハ浄法寺　桂泉水　左ハ山道」とある。

県道に出た旧道は、現在の県道と重って、大渕の名水のところまで行く、そこで、旧道は県道をそれて山際の道を行き、上里への分れ道付近で、県道へ出る。そこから似鳥の部落に出るまでは、北側の山の断崖が馬渕川に迫っている隘路で、北側の山には男岩、女岩などがつ立っている景勝の地である。従って、旧道は馬渕川沿いに狭い道が通じているにすぎなかったが、現在の県道は岩壁を削って通しており、旧道はその下にかくれてしまった。殊に似鳥部落に出る手前に「岩くぐり」と云われた難所もあったが、今日では岩壁が大きく削りとられていて、昔の名残はない。似鳥部落に入ると八幡社と鳳林寺があり、鳳林寺には古碑などもある。

似鳥部落を過ぎて、県道は似鳥橋で安比川を渡り、加沢―大築平へと進むが、旧道は安比川を渡らず、川沿いに北上し、更に山の裾を通る道を安比上野に出た。この道は舗装もされず旧道の名残をとどめている。上野出ると、足沢―安比上野から大築平、または砂子前から福田へと県道福岡―安代に通ずる道路の大巾な改修が行なわれていて、旧道は完全にその姿をなくしている。途中に一部旧道がそのまま残って、農道となっているところがあり、安比上野平の大築と福岡への分れに道標が立っている。

道標のところから砂子前の円通庵のある丘陵を越えるが、その一部に旧道が残っているが、道は大巾に改修されている。改修された道路は砂子前から東に曲って県道に出るが旧道は山裾に民家の点在する前の道路を安比平―小原木―沢口を経て、五万分ノ一地形図に川原とある石渕に来る。そこで、丘陵が張り出して安比川は大きく屈曲しているので、山越えをして浄法寺の漆沢に出る。その山にかかる手前に

道標が二つと、享和元年（一八〇一）の寒念仏供養塔が立っている。道標には「右山みち　左浄法寺」「右山みち　左桂清水」とある。

浄法寺町

二戸市と浄法寺町の境の山道は現在通る人もなく、藪となっているが、精細にしらべると道のあと残っている。山を降りて、安比川と丘陵との間を通っている平坦な道を進むと、八羅子の採石場のある丘陵のところで、山が安比川に迫っているので、山越えして鎌倉橋のたもとにおりた。この山は安比川に臨む断崖をなし、「盗人ころがし」の地名さえ残っている。明治のはじめ、密銭を行った犯人がここから飛び下りて自殺したところと伝えている。

この鎌倉橋まで、似鳥橋から、現在の県道には安比川を渡る橋が六つあるが、旧道は安比川を渡らず通じていたのである。

鎌倉橋の附近におりた旧道は、県道と若干ずれている。橋のところから、県道と安比川の間の畑または宅地となっている川沿いを八〇〇ｍほど行く、次に県道より山際を通って漆沢部落に出る。漆沢部落のはずれで、宮沢・松岡に向う山裾の道を通って、下前田で県道に出る。この間の道は県道に出る附近で、宅地となって旧道は不明となっているが、大部分は現在も利用されている。松岡の道路わきには六地蔵が立っている。岡本から天台寺へ行く道があり、『邦内郷村志』に「岡本八軒、此処巡検使道。又桂清水道也」とある。

下前田で県道と重った旧道は、一〇〇ｍほどで、また住宅地となっている川沿いを通って浄法寺の町中に出た。町中の道は旧道と県道は重なっている。、町の中央にある浄法寺館のうち八幡館のところで、現在のように真直ぐ館の南側を通らず、館の手前で北に曲り、大館との間の道を登って福蔵寺の門前を通って、再び県道に出るというように、コ字形に道が通じていた。再び県道に出る附近も若干変っている。浄法寺館には神明社をはじめ、稲荷神社などがある。

浄法寺町の南はずれに、滝見橋で安比川を渡って、安比川の南岸を旧道は通っていたのは、現県道と同じである。滝見橋は現在の橋より少し上流にあった。旧道は駒ヶ嶺を通って柿ノ木平まで県道と重っているが、柿木平のはずれで、丘陵が安比川に迫って断崖をなしているので、丘陵に登って下藤に降りて再び県道に重なる。この間の山を通る旧道の登り口と降り口は現在も農道として利用されているが、中間で一部はっきりしないところがある。下藤部落を過ぎて一㎞ほどで、安代町に入る。

安代町

安代町に入って一・五㎞ほどは県道と重っているが、土沢部落の手前で、県道をはずれて、山手にかかり、土沢―中佐井―石神の部落の中を通る道が旧道である。土沢の県道より旧道への入り口が畑となってなくなっているが、殆んど残って今日も利用されている。中佐井は『邦内郷村志』に「中佐井村巡検使在二休舎一。捨馬宗門制札。漆工者多居住」とあるようにこの旧道沿一帯の村落は木地挽漆工の多い部落であった。現在石神の旧道沿いにある民家を「安代町民俗文化財資料館」として関係の資料を多く保管している。

石神をすぎて坂を下って再び、旧道は県道と重なって立派に舗装されていて日影まで行く。この間「続岩」と云って丘陵が安比川に迫って断崖を作っている難所があったが、今日崖を削りとって立派な道になっている。

日影から旧道は北に曲って、安比川を渡り下町から五日市館の北側を通って、国道二八二号線に出て南に五〇〇ｍほど下る。そこで五日市小学校校庭の前を通る道で坂を上って、曲田に通ずる農道が、旧道である。この道も有矢野部落では今日も利用されてよい道路になっているが、有矢野と曲田との中間では余り利用されず、廃道になっているところもあるが、旧道のあとは残っている。曲田で鹿角街道に合するが、その少し手前を東北縦貫道路が開通することになり、旧道は切断されることになる。

第三章　文化財・その他

二　戸　市

① 奥州道中と浄法寺街道との分岐点

『北奥路程記』に「福岡町五日町より西方え行道あり、ここは浄法寺街道にて」とある。

② 渡舟場道と橋脚跡

③ 八幡社と庚申塔

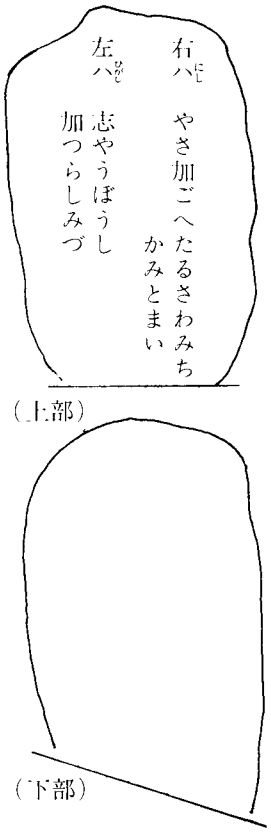
小祠の八幡社の前に寛政十二年（一八〇〇）の庚申塔がある。

④ 長福寺と古碑群

長福寺は鷲峯山。曹洞宗。延宝元年（一六七三）の開基と伝えられる。山門の両側に古碑が集められている。享保五年（一七二〇）念仏供養塔、宝暦七年（一七五七）三界万霊塔の古碑をはじめ、石地蔵もある。

⑤ 大村の道標と朝日観音

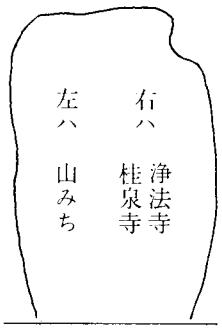
道標は二つに割れているが、合せると、次のようになる。



この道標の西の山の手に朝日観音があり、『邦内郷村志』に精しい記述がある。藩政時代糠部三十三番札所として、多くの巡礼者が訪れたところである。

⑥ 石切所の道標と石地蔵

石地蔵は明治二年のものであるが安産の仏様として信仰されている。道標は文政八年（一八二五）の銘がある。



⑦ 大渕明神の名水

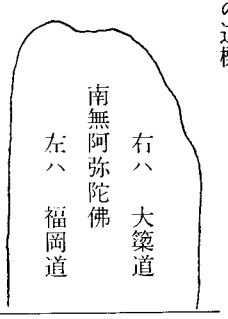
⑧ 岩くぐり

⑨ 鳳林寺と古碑群

長流山。曹洞宗。寺域に明和九年（一七七二）の南無阿弥陀仏供養、宝暦三年（一七五三）の寒念仏供養塔、寛政十二年（一八〇〇）の庚申　廿三夜などの石碑あり。

⑩ 元文五年（一七四〇）の西国三十三ヶ所供養塔などあり。

⑪ 上野平の道標



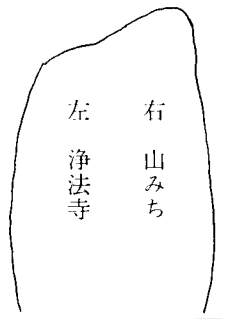
⑫ 円通庵

本尊如意輪観音は二戸市指定文化財である。

⑬ 石淵の道標

三〇mほどはなれて二つの道標が立っている。手前の記年銘のあるものは移されたもので、二つはほぼ同じところにあったものであろう。

（1）



浄法寺町

年代不詳
清水の二字
風化してはっきりしない

① 盗人ころがしの崖

明治時代であるがニセ銭作りが捕えられたが、この崖から飛降り自殺したところと伝えられる。

② 漆沢の古碑

寛政十一年（一七九九）の西国三十三番等参詣成就供養塔などの碑が立っている。

③ 月山別当三光院跡

天台寺別院月山神社の別当として永く栄えて来たが、現在はない。そこにあった宝物は漆田伝内氏が保管している。寛永十六年（一六三九）の銘のある太鼓の胴や、元禄八年の銘ある舞楽面などある。

④ 松岡の六地蔵

年号はない、大きさは光背を含めて、五五cm～五八cm台座の上に立っている。

⑤ 松岡館と千本槻

浄法寺修理が浄法寺館に移る前ここに居城したと伝えられる。城跡の一隅に槻木があり、樹令四〇〇年といわれている。

⑥ 天台寺

『邦内郷村志』に、桂清水観音堂の項に「別当桂寿院。八葉山天台寺。…（中略）…山中松杉老樹路半　而縦横四五十間。曠原拝神霊者、於レ是下馬洗手（含嗽）。清浄而後入二山中一。行路谿谷。末社数十宇。号二衆徒一、有二給地一…（中略）…祭会季夏自二十一日一十六日。近国隣郷参詣来集。商買為レ市、沽衣器財雑具衆多矣。詣二于是地一者多求レ之。最多二家器一。俗云二是浄法寺家器一乎矣（下略）

国指定文化財である木造聖観音立像、木造十一面観音立像をはじめ、県指定の仏像五躰、銅鰐口、観音くじ及筒、鉄製賽銭鉢、本堂内部の観音堂及厨子などある。

神亀五年、行基の開基と伝えられるが、疑問である。平安時代の初の頃の創建と考えている。近年は平安時代中頃創建説を唱える人も多いが、精細は略する。

天台寺の南側の丘に経塚「土不踏の丘」がある。

⑦ 浄法寺町歴史民俗資料館

天台寺のある麓に清水が湧き出ている。その近くに歴史民俗博物館がある。

⑧ 浄法寺館と神明社

神明社は浄法寺館（八幡館）の登り口にある。浄法寺氏が栄えていた頃、守護神として建立されたものと伝えられる。

浄法寺館は町の中心部に位置し、中世浄法寺氏の居城であった。南から八幡館、大館、新城館の三つの館からなっているが、主城は八幡館である。

⑨ 七波稲荷神社

八幡館と大館との間の旧道から、大館に登ったところにある。

⑩ 福蔵寺

吉祥山。曹洞宗。『邦内郷村志』に「開山祖華応圃和尚。遷化元亀三年庚午冬十月十六日、慶長十九年甲寅冬十月利直公賜寺領三十石」とある。寺域に明和六年（一七六九）の「青面金剛庚申塔」がある。

⑪ 滝見橋

滝の橋と云われていたが、元文四年、利視公封内巡行の際、滝見橋と名付たと云われる（『邦内郷村志』による）。現在橋の上流に人造の滝を作ってある。

⑫ 宝篋院塔

墓地の中に一基、古い宝篋院塔がある。

高さ六五cm。

⑬ 駒ヶ峰館跡

⑭ 浄法寺氏の家臣駒ヶ嶺氏の居城。上館と下館の二つの丘になっている。
大清水の五輪塔
墓地に風変りな五輪塔がある。その由緒の伝えは明らかでない。

安代町

昨（五十四）年度鹿角街道の調査の中に報告されているものを列記すると

① 八面荒神
② 石神の大屋
③ 石上八幡神社
④ 五日市館
⑤ 五日市遺跡
⑥ 有矢野遺跡
⑦ 曲田庚申塔
⑧ 安代町民俗文化財資料館

第四章　公開施設

浄法寺町歴史民俗資料館

浄法寺町御山久保
鉄筋コンクリート平家建

昭和五十四年三月に完成、昭和五十五年五月五日に開館したばかりである。浄法寺漆、浄法寺椀の関係資料が展示されている。それに加えて、土器、石器や民具類、山内銭座で使用した諸道具一式も陳列されている。

安代町民俗文化財資料館

昨年度の「鹿角街道」に精しいので省略する。

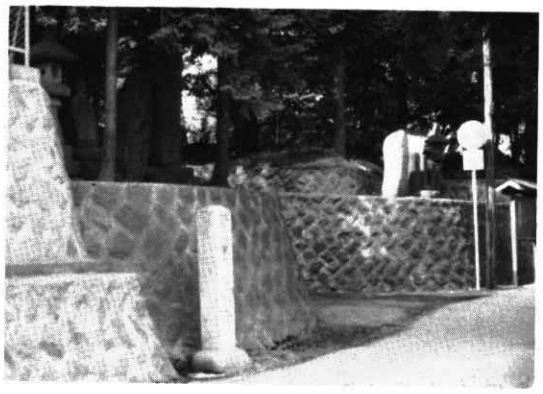
二戸市　国道4号線の東側裏の旧道

二戸市　奥州道中より浄法寺街道の分れ

二戸市　安比川の渡船場東岸より西岸を見る

二戸市　国道4号線を横切って渡舟道への入口

二戸市　石切所の道標



二戸市　長福寺前の石碑群

二戸市　岩くぐりのあった附近

二戸市　大渕明神の名水

二戸市　似鳥の鳳林寺

二戸市　似鳥の八幡宮

二戸市　安比川沿いの旧道

二戸市　似鳥橋附近で安比川沿いに行く旧道

二戸市　上野平の道標を上った附近の旧道

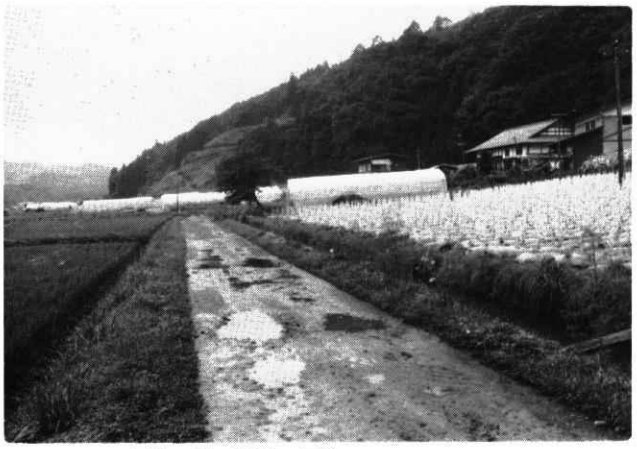
二戸市　安比上野より上野平への旧道

二戸市　上野平の道標

二戸市　上野平の道標のある分岐点

二戸市　円通寺の裏の丘陵に残る旧道(左側の小道)

二戸市　石渕の安永4年の道標のある附近の旧道



二戸市　沢口附近の旧道

二戸市　分岐点にある道標

二戸市　石渕の安永4年の道標

浄法寺町　八羅子の村境い旧道は雑木に覆われている

二戸市　石渕の道標のある分岐点

浄法寺町　八羅子の盗人ころがしの崖

浄法寺町　盗人ころがしの丘から見た旧道
（村境の方にのびている）

浄法寺町　松岡の六地蔵

浄法寺町　渋沢のはづれから宮沢への旧道の入口

浄法寺町　町山の天台寺本堂

浄法寺町　六地蔵附近の旧道

浄法寺町　下前田の旧道あと（住宅の間の道）

浄法寺町　御山の天台寺麓の桂清水

浄法寺町　下前田の旧道あと県道は曲っているが
真直ぐ道がついていた

浄法寺町寺の上　福蔵寺

浄法寺町　八幡館跡の神明社

浄法寺町　駒ケ嶺館跡

浄法寺町　滝見橋

浄法寺町　袖野の五輪塔

浄法寺町　荒屋の宝篋院塔

浄法寺町　下藤の山手から下りて来た附近の旧道
（左手の細い道）

浄法寺町　柿木平より山手に入る旧道

安代町　石神部落附近の旧道

安代町土沢　県道より土沢部落への旧道のあった附近
（この部分だけ畑になっている）

安代町　五日市館北側の旧道

安代町　石神部落の旧道より県道への下り道

安代町　国道より有矢野小学校前の旧道の登り口

安代町五日市　旧道より国道への出口附近

安代町有矢野　農道として残る旧道

安代町　有矢野の村道より旧道の農道への分れ道

安代町曲田　鹿角街道と合流する附近
（広い道路が現鹿角街道）

安代町　曲田の旧道
（藪となって通る人もない廃道）

浄法寺町御山
浄法町歴史民俗資料館

資料館内部

資料館内部

二戸市　大村の道標

（上部）

（下部）

八戸街道

第一章　まえがき

八戸街道は、寛文四年（一六六四）八戸藩二万石が盛岡藩から分藩することになって、八戸藩主が参勤交代で上下するので、重要な街道となった。そして八戸藩の徒目付として、参勤交代の際、諸事仰付って用人としての仕事をした小笠原氏並びに、同じような役目を仰付った遠山氏の両氏の道中記や、参勤交代に当って「御用人勤方」を書いた記録の精細なものが八戸市立図書館に保管されていて、参勤交代に当っての状況を知る上に非常に参考になった。

その八戸街道は、八戸の方から書いた嘉永二年の記録によると

一八戸　　三里半
　　百廿三文　八十五文
　一ノ坂二ツ屋沢里山見る大峠天狗沢
　泥障作左ニ嶋守村山見。
一市ノ沢　三里
　　百八文　六十九文
　苅志き山　中野村　大森村　市沢入口　右軽米村有
一観音林　二里廿九丁
　　百五文　六十七文
　観音堂有　右名久井嶺　左ニ山内獄見ユ
　右はりま沢川境有、鳥屋部長沼
　二左平村うしミ坂タン坂　左三戸海
　道有　堀野村
一福岡　　壱里廿三丁
　　（下略）　　（小笠原文書）

とあるのが八戸街道で、このうち岩手県分は福岡から、観音林と市ノ沢の中間までで、市町村で云うと、二戸市と軽米町に属する分だけである。

二戸市は田中庄一委員が、軽米町は永井勝栄委員が現地調査したのに基づいて、九月六日に筆者も現地を調査した。しかし猿越峠は夏分で通行が困難であったので、十月三十一日補足調査を行って調査を完了した。八戸市立図書館の資料は一昨年調査したものを利用した。

現在、福岡から観音林への県道は、旧道を改修利用しているのは観音林の一部だけで、全く新しい路線が通されている。しかし、旧道も最近は林道として改修舗装されているところが多いが、一部に旧道のままのところも残っている。中でも猿越道は現在土地の人も殆んど通行することもなく廃道の状態で旧道が残っている。

次に街道の現状について述べるが、ここに小笠原文書の「御登御道中御用人勤方」のうちから観音林のところを引用しておく。同じように、宿駅における休み場所や宿所での精細な記述が見られる。

観音林

一御着座之節御座間御障子際江御出迎致候事但帯力
一御着座当役両人相揃御機嫌相伺候事
一当所詰御役人当役待座無之御熨斗差上候儀伺之上物差上候事　尤帯力ニ而差上ル
一詰御役人江御逢之儀相伺被遊　御逢御家老奏者
　但無刀且御家老御供無之節当役帯刀奏者尤別御熨斗者別ニ為差上大熨斗ト並置
　被下済御別のし計相下ル

右御請申出達　御聴

右畢而御煙草盆御茶御膳差上

一請御役人幷御供御徒目付御機嫌相伺達　御聴御挨拶申達之。

一非常之当役御先ニ市戸ニ出立

一当所観音江御参詣相伺候上御直参被遊候ハ、向ニ被申達御目付御先之当役御供

御直参無之候得者　御代参御刀番江申達旅装束儘ニテ相勤御初穂三拾弐銅

一福岡香香稲荷江御参詣（下略）

（「御登御道中御用人勤方」）

（小笠原文書）

第二章　街道の現況

堀野部落の北はずれで、奥州道中と八戸街道との分れがあり、そこに道標が立っていたが、現在その分岐点のほぼ中央を国道四号線が北上している。そのため道標は国道から八戸街道への入り口の左手に立てられている。八戸街道は国道四号線から東に曲って、仁左平の方向に向って東北方に進む。入り口附近は旧道の感じを残しているが住宅地を抜けて、山裾を進むところは最近道路の改修が行なわれて立派な舗装道路となっている。その途中に一里塚がある。東側の一基は完全な形で残っているが、西側のものは完全に破壊されてあとかたもない。東側の一里塚は周り約一一m、高さ二・四mである。現在の道路は、旧道より少し掘り下げられているので、一里塚が段の上にのっているような形をしている。

旧道は更に北上して、仁左平の丘陵にぶっかって、右に丘陵の谷間の道を進むと、寛政十二年の庚申、二十三夜塔が路傍に立っている。旧道はそこから丘陵に登って行ったが、現在は下の方を丘陵の斜面を削って、自動車の通行の便利のようにつくられている。そして旧道部分の下が削り取られたのでなくなっているところもある。

旧道は矢沢から左久保、夏間木への道路と交叉するところに、石の地蔵と念仏供養塔が立っている。そこから旧道は真直ぐ、東の方に坂を下る人馬の歩行しか出来ない悪路を通って、また坂を上って丘陵の台地に出る。久保の古碑群のあるところまで、現在農道として残っている旧道を行くが、古碑群の北で、旧道は一旦切れた形になって、一〇mほど下の大きく改修されている道をたどることになる。そして二戸市のゴミ焼却場に行く少し手前で、旧道は丘陵に入って猿越峠への道をとる。この山道は現在も農道として利用されていて、大半残っているが、本新田の一里塚のところだけ、畑耕作のため、道路が山際につけ代えられて、一部消滅している。一里塚は約五mはなれて二基並んでおり、左側の一基は周り約一〇m、高さ約三mでほぼ完全に残っているが、右側の一基は上が削られて高さ約七〇cmで、周りは約一二mほどある。市で指定して保存する必要がある。

猿越峠への旧道は現在通る人もなく、道筋に笹が生い茂って、夏分には到底通行出来る状態でないが、秋になって、落葉の時節には道がついているので何んとか通行可能である。猿越峠頂上の五〇mほど手前に、駕籠置場といわれるところがあり、現在は笹や灌木が茂ってはっきりしないが、苅りはらえば五〇m^2位の広さと思われる、見晴しの良い場所がある。峠を越えると軽米町である。

軽　米　町

猿越峠の道は軽米町分も同様で、道筋は残っているが、現在通る人もなく笹に覆われている。峠を下りると、旧道は現在の県道と重なっているが、その手前一〇〇mほどのところ駕籠置場があり、峠越をして小休止したところであろう。また峠越えの準備もしたことであろう。ここは八戸領であるから、自領に帰って、一休みしたり、また他領に出る準備をしたことでもあろう。

県道となっている八戸街道を行くと、観音林部落の手前に一里塚がある。一里塚のところだけ旧道が屈曲して旧道が残っている。即ち直進する県道から左に半円形に孤を描いた旧道があり、再び県道に出る。その左手の林の中に径五m、高さ三mほどの塚があり、半円を描いたところに大きな松が生ており、その部分が塚になっているように見えたが、苅り振って見ないとはっきりしない。その松の下に四基の五

輪塔がある。五輪塔と報告されているが、完全に揃ったものはなく、宝篋院塔とも見られる。

再び県道となって舗装されている街道を行くと、右手に稲荷神社があり、その附近から観音林の部落となる。部落中程の右手に御仮屋跡がある。八戸藩主は小休止し、八戸を出発して、ここで昼食をし、一戸で宿泊したようで、帰りは一戸か福岡で泊って、ここで昼食をしたようである。その際のしきたりはまえがきに述べた。この御仮屋の近くに観音堂がありそれに参詣するのが例であった。

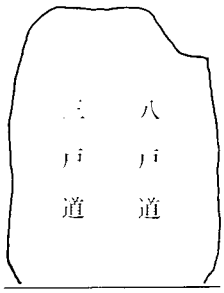
観音林の部落を過ぎて高清水の部落ところで、旧道は県道からそれて左側に入り、観音林小学校の裏を通って市野沢への道路に出る。この間一、五㎞ほどの間は農道となって残っている道で、途中に上り下りのある道である。現在市野沢への道路は高清水部落のはずれで分れて舗装された道路になっているが、この道は県道と分れて二〇〇㎞ほどが新しくつけられているが、大半は旧道が改修され道巾も広く舗装されている。

その街道を行くと、右側に一里塚が半分以上削り取られてある。左側のものは完全に破壊されている。これは道巾が拡げられた上に、道も平坦にするために四㎞ほど掘り下げられているので、その破壊を著しくしている。残っている塚は高さ一㎞、径三㎞ほどの三ヶ月形に残っているにすぎない。その附近から県境までは単調な舗装道路で特記することもない。ただ青森県側は未だ舗装されていない。

第三章　文化財・その他

一　戸　市

① 八戸街道の起点の道標



② 天保六年の山神の石碑

③ 仁左平の一里塚

④ 寛政十二年の庚申、二十三夜塔

⑤ 供養碑と石地蔵

念仏供養碑には文政六年（一八二三）の記年銘あり、地蔵尊には銘なし。地蔵尊は部落では大切にされている。

⑥ 久保の古碑群

文化八年から明治三年までの石碑が八基まとめられて立っている。

⑦ 本新田の一里塚

軽　米　町

① 猿越峠

② 駕籠置場

③ 観音林の一里塚と五輪塔

④ 稲荷神社

寛保二年（一七四二）に創建と伝えられる。

④ 観音林の御仮屋

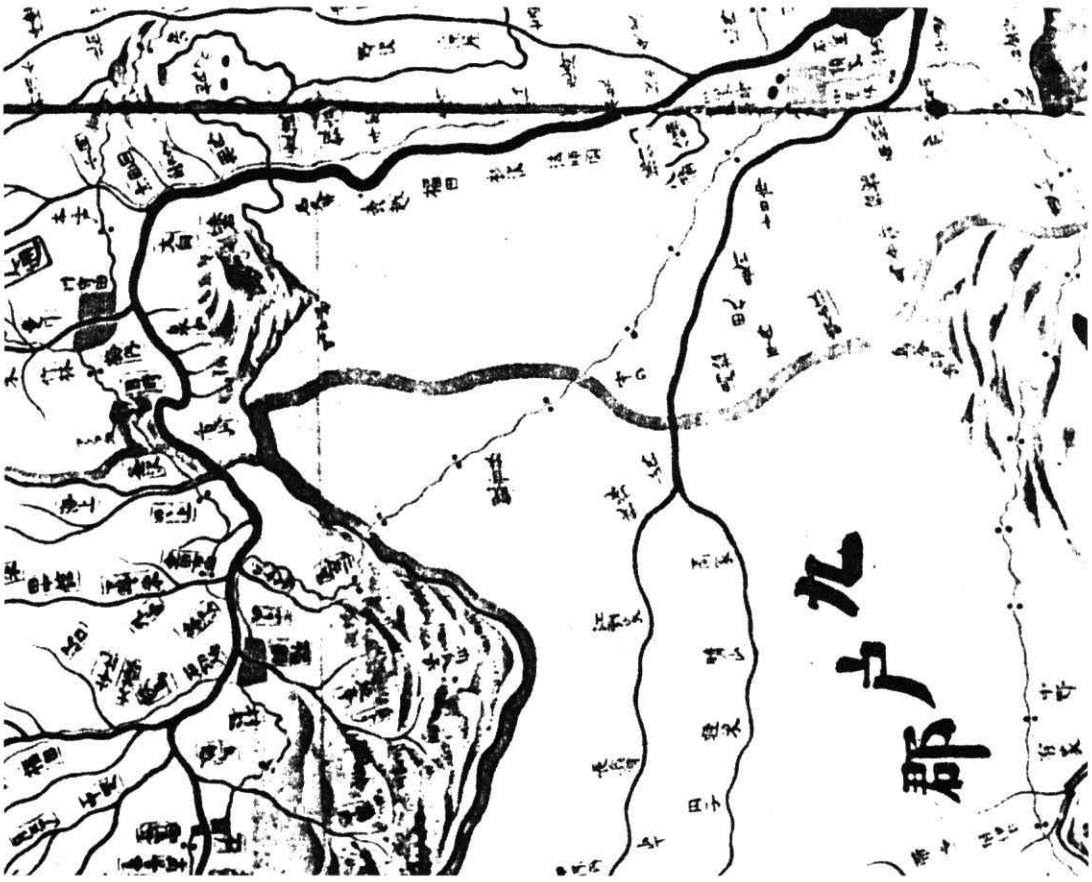
⑤ 観音堂

糠部三十三観音のうち三十一番札所として、現在も巡礼者が多い。観音林の地名はこれより出ている。

⑥ 古屋敷の千本桂

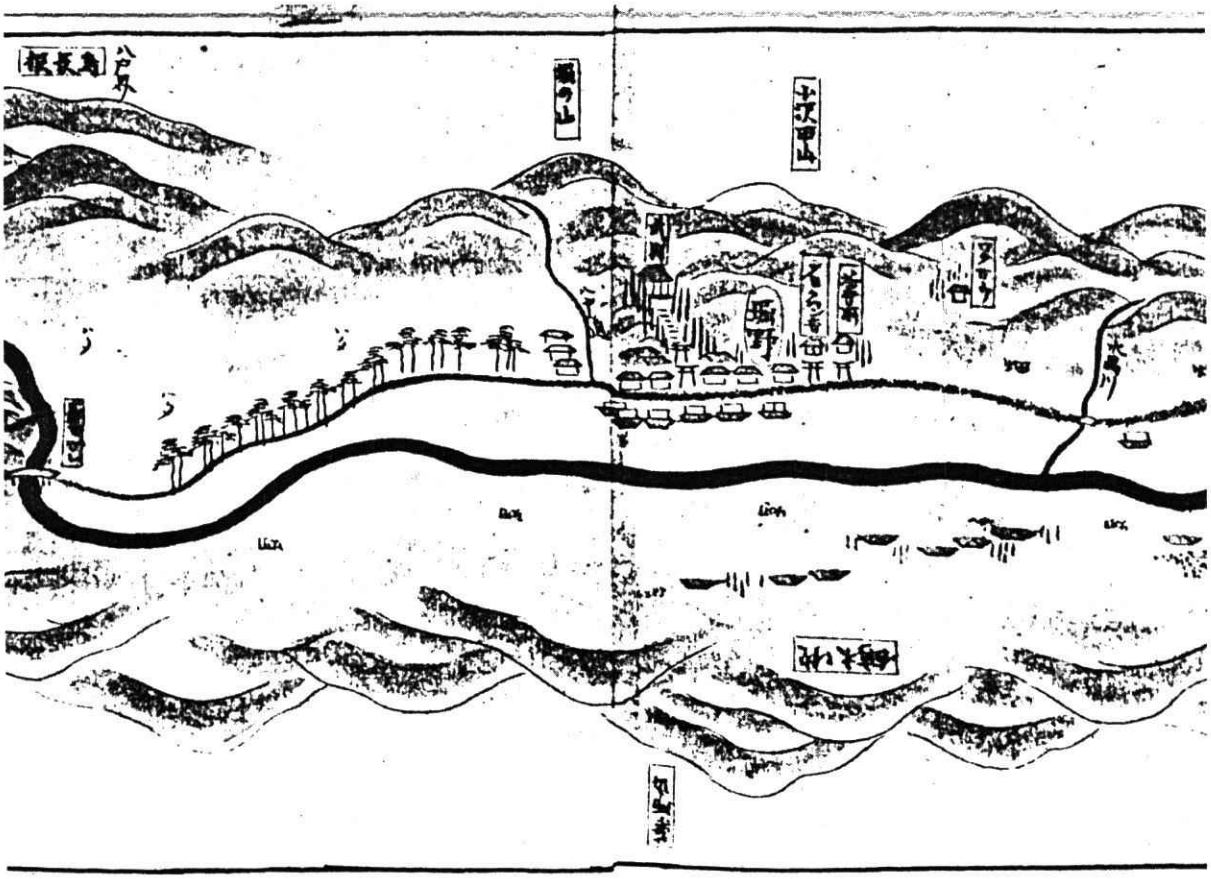
主幹は枯死しているが、根元から新しい幹が約二十本出て、根元の径が五、六五㎞で、樹高二二㎞ある、樹令約五百年と推定される。

⑦ 晴山の一里塚



天保十巳亥年南部惣領絵図（田中庄一氏所蔵）

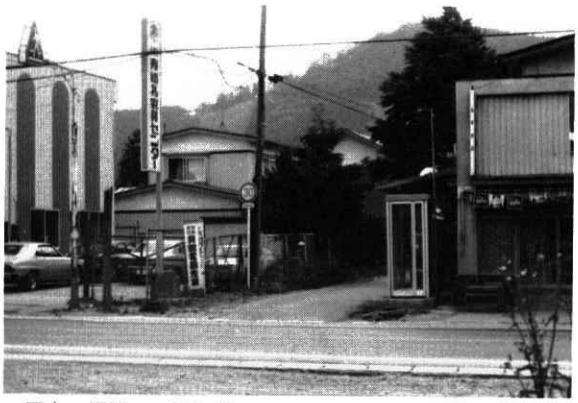
八戸街道１図



北奥道中図（盛岡市公民館蔵）

八戸街道２図　奥州道中より八戸への分れ

二戸市　入口にある道標


二戸市　堀野の八戸街道入口附近

二戸市　大畑の一里塚

二戸市堀野　大畑の一里塚附近

二戸市仁左平　中田の石の地蔵

二戸市仁左平　横手の旧道（左手の登る道）

二戸市仁左平　中田の旧道

二戸市仁左平　中田よりの下り道の入口

二戸市仁左平　久保への農道

二戸市　仁左平の部落を通る旧道

二戸市　久保の石碑群のところで旧道を切断している断崖

二戸市　久保の石碑群附近の旧道

二戸市仁左平　本新田の一里塚への農道として残る旧道

二戸市仁左平　本新田への旧道（左手に曲る道）

二戸市仁左平篠倉　猿越峠への旧道(Ⅰ)

二戸市仁左平　本新田の一里塚（東より撮影）

軽米町観音林　猿越峠の軽米町分の旧道

二戸市仁左平篠倉　猿越峠の旧道（２）

軽米町　観音林の一里塚

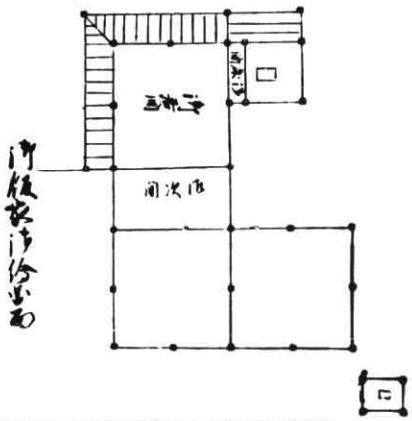
軽米町　駕籠置場附近の旧道

軽米町観音林　一里塚附近の五輪塔群

軽米町　観音林の家並

軽米町　稲荷神社

軽米町　観音林の観音堂



観音林の御仮屋(八戸市立図書館所)

軽米町　高清水の旧道(１)左手に舗装されたのが県道

軽米町　古屋敷の千本桂

軽米町　高清水の旧道(３)右テの道

軽米町　高清水の旧道(２)晴山小学校裏の旧道

軽米町　晴山の一里塚

浄法寺街道 1

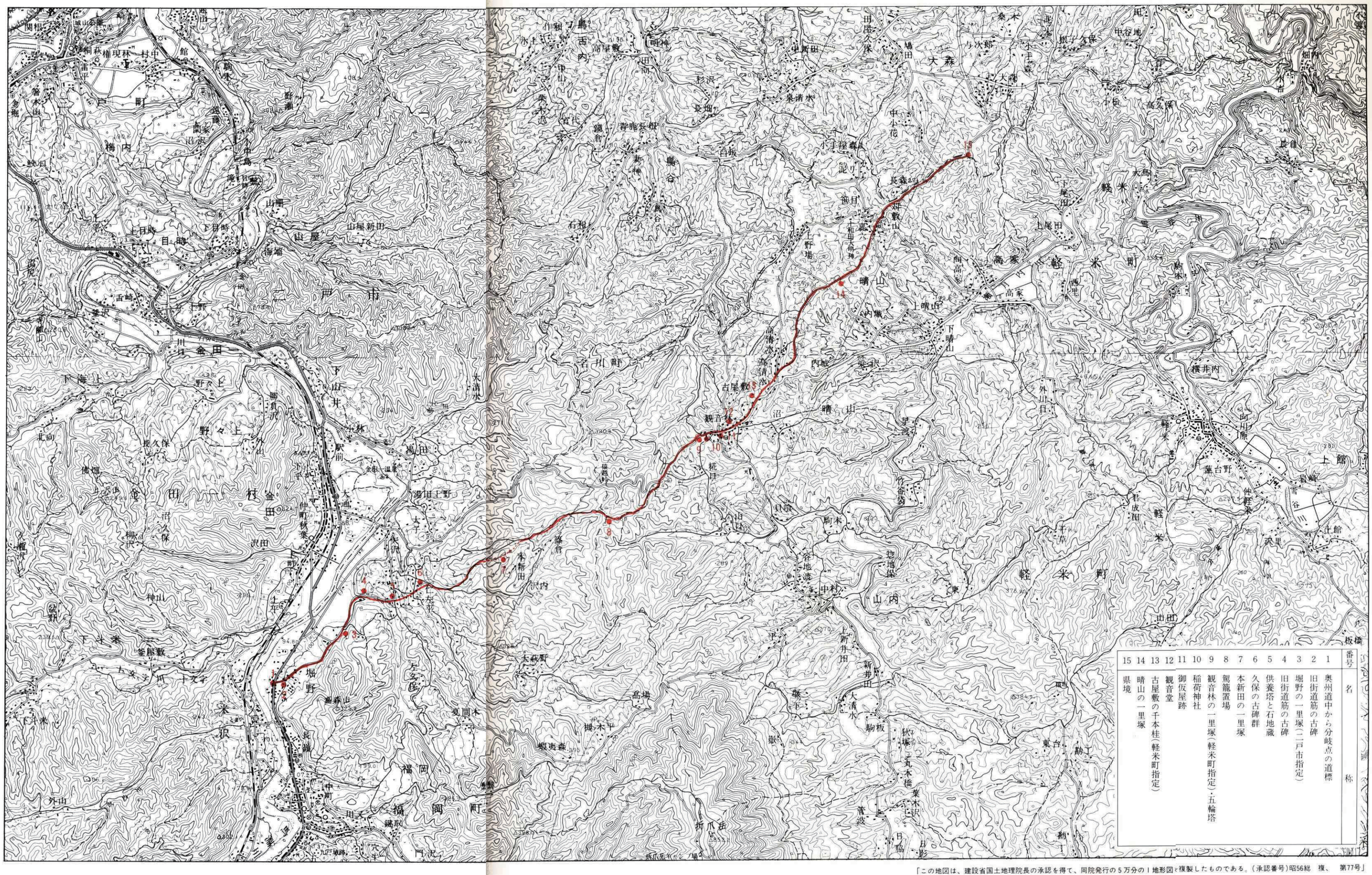
番号	名称
1	奥州道中からの分岐点
2	渡船場跡
3	八幡社・古碑
4	長福寺・古碑群
5	大村の道標と朝日観音
6	石切所の道標・石地蔵
7	大渕明神の名水
8	岩くぐり跡
9	鳳林寺・古碑群
10	旧街道筋古碑
11	上野平の道標
12	円通庵
13	石渕の道標
14	盗人ころがしの崖

「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の５万分の１地形図を複製したものである。（承認番号）昭56総　複、　第77号」

浄法寺街道 2

番号	名称
1	漆沢の古碑
2	月山別当三光院跡
3	松岡の六地蔵
4	松岡館と千本槻
5	天台寺
6	土不踏の丘
7	浄法寺町歴史民俗資料館
8	浄法寺館と神明社
9	七波稲荷神社
10	福蔵寺
11	滝見橋
12	宝篋院塔
13	駒ヶ峰館跡
14	大清水の五輪塔
15	安代町「民俗文化財」資料館
16	鹿角街道との合流点

「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の５万分の１地形図を複製したものである。（承認番号）昭56総　複、　第77号」



「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の５万分の１地形図を複製したものである。（承認番号）昭56総　複、　第77号」

岩手県文化財調査報告　第六十七集

浄法寺街道・八戸街道

昭和五十六年三月三十一日　発　行

編　集　岩手県教育委員会事務局文化課

発　行　岩　手　県　教　育　委　員　会

印　刷　株式会社　杜　陵　印　刷